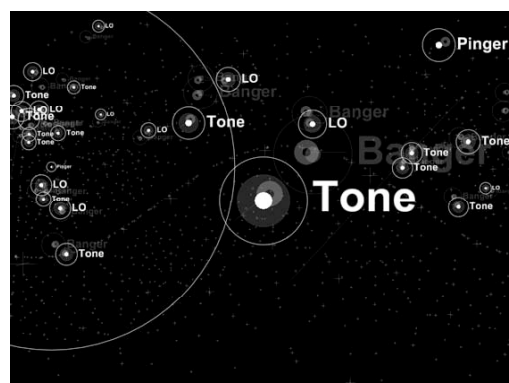


2008年4月プレスリリース
山口情報芸術センター（YCAM）

YCAM長期展示作品シリーズ scopic measure

わたなべ ともや
#07 渡邊 朋也 「IAMTVTUNERINTERFACE」

ひが さとる
#08 比嘉 了 「VP4L」



「IAMTVTUNERINTERFACE」 photo: Hiroki Obara

「VP4L」

この度、山口情報芸術センター（YCAM）では、長期展示作品シリーズ「scopic measure(スコピック・メジャー)」*の第7弾として渡邊朋也「IAMTVTUNERINTERFACE」を、また第8弾として比嘉了「VP4L」を展示いたします。

「IAMTVTUNERINTERFACE」は、複数のテレビ放送を特殊な受信画面に変換し、同時に一つの映像として表示する作品です。さらに、この作品では、観客の動きによって、その映像と音声を変化させることができます。また、「VP4L」は、観客が会場を自由に動くことによって、投影されている仮想空間の音風景が次々と変化し、それを映像として体感することができる作品です。

実際に身体をつかって、テレビ放送との関わり方、そして音響空間の変化の様子を体験することのできる二つの作品を、YCAMで約2ヶ月にわたって展示いたします。

YCAM長期展示シリーズ scopic measure (スコピック・メジャー)

#07 渡邊 朋也(わたなべ ともや) 「IAMTVTUNERINTERFACE」(アイアムティーヴィーチューナーインターフェイス)

#08 比嘉 了(ひが さとる) 「VP4L」(ヴィ・ピー・フォー・エル)

会期：2008年4月18日(金)～6月15日(日) 10:00～20:00 *火曜休館

会場：山口情報芸術センター 2Fギャラリー 入場無料

主催：財団法人山口市文化振興財団

企画：山口情報芸術センター（YCAM）

制作協力：YCAM InterLab

#07 渡邊朋也 「IAMTVTUNERINTERFACE」

テレビ放送を独自の映像表現におきかえ、日常化したテレビと人間の関わりを考える本作は、テレビ放送の映像や音声を、空間内の人の動きによって変化させるインタラクティブアート作品です。

現在放送中のテレビ放送をリアルタイムで受信し、5チャンネル（山口で視聴可能な局）の映像が地層の帯のように再構築され、正面のスクリーンに表示されます。観客が体を自由に動かすことで、チャンネルの帯の空間的な前後上下の位置関係を切り替えたり、同時に数チャンネルを観客の目の前に共存させたりすることができます。

この作品は、いまや無意識的に日常化しているテレビというメディアと人間との関わり方に異質感を与え、テレビ放送の存在自体を再考するきっかけを与えていくものです。テレビ放送の不断の計測と変化を提示するこの作品は、2011年に停波する現行の地上波テレビ放送へのオマージュでもあります。

*体験者の動きは、上方からモーションキャプチャーにより画像解析されています。この作品では、体験者が自分の体を動かすことによって、作品を操作することができます。どんな動きをすればどのような変化が起きるかを、その場で観客が探っていく作品です。

*今回の展示は、アーティストが約1週間YCAMに滞在／研究し、バージョンアップを行う最新版となります。

渡邊 朋也 / Tomoya Watanabe

1984年東京生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術コース卒業。同コース副手を経て、現在同大学図書館に勤務。主にテレビジョン、ラジオといった既存メディアの拡張／再構築をテーマに映像やインスタレーションなどの制作を行う。2007年より多摩美術大学図書館の館内に併設されるアーケードギャラリーなど館内サービスの運用やPRなどを担当し、図書館のコンセプトを紹介する書籍「つくる図書館をつくる」(鹿島出版会)の編集にも参加している。



Photo: Takashi Mochizuki

主なグループ展参加歴

- 2005 「Central East Tokyo 05」(東京)
- 2006 「釜山ビエンナーレ」(釜山／韓国)
- 2007 「Central East Tokyo 07」(東京)

#08 比嘉 了「VP4L」

身体をつかって、プログラム空間としての音風景を体験する

「VP4L」は、比嘉了によって独自に開発された音響合成ソフトウェアを用いたインスタレーション作品です。[当館にて3月まで展示されていた作品「VP3L」のバージョンアップ版となります]

床面には2面のスクリーンが設置されています。両スクリーンにプロジェクションされているのは音響が生成されるオブジェクトを配した仮想空間です。「VP3L」からバージョンアップした本作では、4次元版の「VP4L」となり、音響プログラミング空間内に、もう一つの空間を作り出すことができるようになっています。

体験者の動きは、上方からモーションキャプチャーにより画像解析されています。そのため、会場の中央に立ち、身体を動かすことで、空間の変化がグラフィカルに反映され、音響空間に影響を与えます。それによって、映像の動きとリアルタイムに同期した音風景を体感することができます。また、音空間のヴァリエーションは、体験者のインタラクションに反応し、さまざまな種類の音響構成のプログラムを楽しむことができます。

* 今回の展示は、アーティストが約1週間YCAMに滞在／研究し、バージョンアップを行う最新版となります。

* 「VP4L」は、MAX/MSPのようなパッチをベースとした、GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）を用いたオブジェクト指向の言語「VP3L」（比嘉氏が独自に開発）のアップデートバージョンです。

比嘉 了 / Satoru Higa

1983年、沖縄県生まれ。プログラマー。

オリジナルなプログラムやデバイスを用いたサウンド・パフォーマンスや、ソフトウェア・アートの制作研究を行う。近年は、3次元空間における独自のユーザー・インタフェースを設計し、それを用いたリアルタイム音響合成ソフトウェア「VP3L」を開発している。多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻情報デザイン領域情報芸術コース修了。 <http://www.lalalila.org/>



活動歴

2006 NIME [New Interfaces for Musical Expression] (パリ／フランス)

2006 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (初台／東京)

2007 IPA 2007年度第1期 未踏ソフトウェア創造事業に採択

* YCAM 長期展示シリーズ「scopic measure (スコピックメジャー)」では、コンピュータメディアと人間の関係性から生まれてくるアートシーンに注目し、先端情報技術を柔軟に使いこなす若手アーティストの作品やプロジェクトを紹介していくシリーズです。YCAM 館内の展示空間／公共空間において、年間を通じて順次展示を入れ替えながら、継続的に紹介します。

scopic measure 過去の出展作品

- #01 「KODAMA」 山川 K. 尚子 (会期:2007/02/01~07/02)
- #02 「MaSS 2007 ver.」 MaSS dev. +YCAM InterLab (会期:2007/04/04~11/05)
- #03 「Modulobe」 江渡浩一郎 (独立行政法人 産業技術総合研究所) (会期:2007/04/28~12/27)
- #04 「DriftNet」 「a plaything for the great observers at rest」 平川紀道 (会期:2007/05/09~07/12)
- #05 「VP3L」 比嘉 了 (会期 : 2007/07/14~03/31)
- #06 「sight seeing spot」 萩原健一 (会期 : 2007/09/29~2008/01/14)

<山口情報芸術センター (YCAM) へのアクセス>

■山口宇部空港から

- ・ 乗合タクシーで YCAM まで 約 1 時間(2300 円)
※前日 18:00 までに要予約 大隅タクシー0120-31-0860
- ・ 空港連絡バスで JR 新山口駅まで 30 分(870 円)

■JR 新山口駅から

- ・ JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分／タクシー5 分
- ・ JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分／バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)／タクシー5 分
- ・ 防長バス／JR バス 25 分、中園町下車

■自動車利用

- ・ 山陽自動車道で防府東 IC から 30 分・九州・中国自動車道で小郡 IC から 20 分

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター(YCAM) 広報担当：廣田

〒753-0075 山口県山口市中国町 7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>
